

# 総務厚生常任委員会

本町議会の各常任委員会では、例年、町の懸案事項や課題の解決に向け、道内外の先進地を視察し調査研修を行っています。今年度は道内の先進地を訪れ、所管事務調査を行いました。

その調査結果を、各常任委員会ごとに報告します。

調査日

平成24年10月10日

から12日

## 伊達市

### 伊達火力発電所

伊達火力発電所は、1号機が昭和53年11月、2号機が昭和55年3月に運転開始した重油による火力発電所で、出力は共に35万kwです。福島第一原発事故により、泊原発が完全停止するまでは、大型

電源脱着時の受給調整の位置付けでしたが、現在はフル稼働で電力供給を行っており、燃料コストは1日約7億円とのこと。

## 伊達市

### 伊達ソーラー発電所

平成23年6月に営業を開始したソーラー発電所で、敷地面積3万㎡、太陽光モジュール面積7200㎡（4万4800枚）発電出力1千kw、系統連携電圧6.6kwです。年間発電電力量は、100万kw、一般家庭消費電力約300軒分、年間400トンのCO2削減が可能とのこと、平成32年までに5000kw程度の導入を目指しています。

す。新得町においても今後、再生可能エネルギーへの取り組みが重要であると感じました。

## 京極町

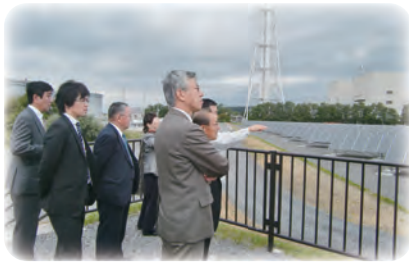
### 北海道電力京極発電所

建設中の京極発電所は、北海道初の純揚水式発電所です。発電所の上部に調整池、下部にダム（調整池）を建設し、昼間は発電を行い、夜間は余剰電力を使って下部の調整池の水を汲み揚げ、上部調整池に水を貯める方式をいいます。揚水式発電の目的とは、使用電力量のピーク時に化石燃料に頼らない、また、使用量の急激な変化に素早く対応できる特性を活用し、火力、原子

力とのベストミックスを目指すためとのこと。

今後、国、原子力規制委員会の方針、また、泊村周辺自治体の対応によって、稼働する意味がなくなる可能性もあると感じます。

いずれにしても、今後日本の電力供給がどのように構成されていくのか、原子力、火力、水力、太陽光、風力、バイオマス等々、これからの動向を注視し考えていく必要を感じました。



伊達ソーラー発電所

## 泊原子力発電所の安全対策

東京電力福島第一原子力発電所の重大事故を受け、泊原子力発電所では原子力発電における安全の基本として、「原子炉を「止める」「冷やす」、放射性物質を「閉じこめる」の3つが重要である」と伺いました。

「止める」は、自動制御により停止状態が失われることはないとのこと。

「冷やす」は、電源の確保のために移動発電機車2台を高台に配備、原子炉、使用済み燃料ピット冷却の為の仮設ポンプ、ホースを配備すること。

「閉じこめる」は、浸水対策として水密性を向上させるた